

8/25
五

介護職員など継続検査

東京世田谷実施5倍超へ

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のためにPCR検査数を大幅に増やす「世田谷モデル」を示していいる東京都世田谷区は24日、発熱などの症状のある人や濃厚接触者に実施している現行のPCR検査に加え、新たに介護施設職員などに継続的に検査を実施する、同モデルの具体策を明らかにしました。

↓関連④面
区は現在、PCR検査を

■PCR検査の「世田谷モデル」
発熱などの有症者や濃厚接触者
規模 1日 約600人(現在は約300人)
経費 8億5000万円(補正予算)
介護事業所職員、保育園・幼稚園職員、
特養などの入所予定者
規模 1日 1000人(介護職員を先行)
経費 4億1000万円(寄付、国に助成要請)

1日約300人実施していますが、今回の措置で1600人へと5倍超に拡大。その内訳は、△有症者や濃厚接触者に実施している1日約300人を600人へと倍加△社会的インフラを維持するために、介護事業所や保育所などの職員に対し「社会的検査」と位置づけ、1日1000人程度を見込んでいます。

現行の検査を1日600

人に増やすため、保健所と区医師会が行うPCR検査センター内に、12時間で500検体を分析できる機器を導入し、結果が出るまでの時間を短縮させます。

社会的検査の対象は、介

ホーム等の施設入所予定者の3ケースを想定。今回は

保坂辰人区長は会見で、

介護事業所職員に先行実施します。

社会的検査は、保健所に

新たな負担を強いることは

難しいため、民間へ委託し

る前に症状のない感染者を

ピックアップし、クラスター

防止、地域拡大の防止効

率がある」と述べました。

社会的検査の意義について

「介護現場から要望も上が

っています。事態が深刻にな

ります。

護事業所職員約1万人、保

育園(約1万人)と幼稚園

ます。費用は、寄付金、国

や東京都への財政支援を求

めます。

8/25
五郎

コロナ1病床に1.4万円

東京・世田谷区が医療支援

東京都世田谷区は24日、新型コロナウイルスの専用病床を設置した病院や、休診を余儀なくされた医療機関への財政支援など「新型コロナウイルス感染症対応医療機関等支援事業」をまとめました。

支援事業は、△新型コロナ入院病床の確保

支援▽発熱外来の設置

▽休業・縮小施設の再開支援

▽の3点。

新型コロナ対応の病

床を確保するため、患

者や疑いのある人の

みが使用する病床を設置した医療機関に

対し、区独自に1日当たり空きベッド1床

に1万4400円補助します。その病床を区

療報酬に加え1日1床8000円補助しま

す。

区の担当者は、國の

助成措置では足りないとの現場の声を受

け、区独自の上乗せ措

置を設けたと説明しま

す。

発熱外来を設置した

医療機関に1日4万

1700円補助しま

す。交付要件は、△1

日3時間以上診療▽P

CR検査または行政檢

体の受け入れ実績があ

る▽一般患者と動線を

明確に分けることで

民が利用した場合は診

す。

医療従事者や一般の

入院患者が新型コロ

ナに感染し、外来診療

の休診や病床を一部

閉鎖した場合などへ

の支援も盛り込み、

休診1日につき4万1

700円、1病床1日8000円を助成しま